



活力ある秋田 Vol.51

酒を楽しむ・・・

〔秋田市観光クチコミ大使〕 日本ビューホテル(株) 専務取締役 鈴木庸夫氏

私は現在浅草に住んでおります。秋田ビューホテル勤務後、郡山、那須、そして浅草ビューホテルの総支配人を務め、現在は浅草ビューホテル内にある本社に勤務しております。浅草は昨年5月22日にオープンした東京スカイツリーのお蔭で大変賑わっております。スカイツリーの絶景をまだご覧になっていないようでしたら、日経トレンドイで「スカイツリービュー」No.1と紹介された浅草ビューホテルへぜひともお越しください。



25年前、秋田で過ごした2年半の思い出はやはり日本酒です。日本酒消費量日本一と言われ、秋田の産業は米と酒。宴席でビールは御法度、秋田を盛り上げるなら日本酒だ、地域産業おこしは日本酒を飲むことだと大いに酒を楽しみました。

親父の遺言となりましたが、「酒か煙草、どちらか一つを選べ。煙草は一人自分自身のものだが、酒は友人人生をつくる」と、末っ子の私に教える親父の晩酌に、幼き頃からつき合わされました（煙草はいまだに一本も吸っていません）。

そんな私から見ても、秋田での酒飲みは半端ではありませんでした。当時は市内に多くの料亭があり、30数名の宴席であれば、何としても秋田の一員に認められなければとの思いもあり、お一人お一人にお酌をしてお流れを頂戴し、酒を飲み人間を飲んでいただく修行をさせていただきました。食べ物、お酒は美味しい、そして何より安い。だから東京からくる支店長・支社長は体を壊して帰る人がいる—そんな話が出るような、川反全盛の良き時代でした。

2年半はあっという間に過ぎ、次の勤務地郡山も秋田に負けず酒処、大いに酒を楽しむ機会がありました。そのひとつが、秋田銀行様のきりたんぽ会に入会させていただき、わざわざ郡山まで運ばれた秋田料理で酒

を飲ませていただきました。

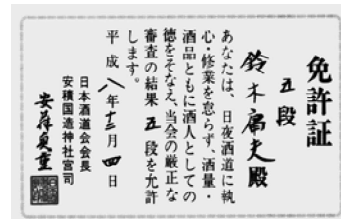
そして、安積国造（あさかくにつこ）神社の安藤宮司が会長を務め、酒人としての心構えを説く酒道



五則の下、春と秋の例会で交友を深め酒の作法と酒の道を探求する日本酒道会です。初回の参加で「入門証」、二回目の参加で「初段」を取得でき、以降、2回参加するごとに“昇段”していく仕組みで、私は五段を取得しています。

ぜひ、酒処秋田でこのような会ができないでしょうか。また、日本酒で乾杯する習慣を広めようと、京都市議会が『清酒の普及の促進に関する条例』を全会一致で可決したとのニュースを目にしました。条例としてはおそらく全国初とのこと。観光資源は「何もない」のではなく、つくるもの。私が浅草に着任した際、夜のホテル周辺は真っ暗でした。浅草寺をはじめとする浅草の資源を活かそうと、新参者ながらライトアップを提案し、地元の方々の賛同を得て、本堂、五重塔、雷門のライトアップを実現しました。浅草寺とスカイツリーのライトアップ競演を、ぜひ一度ご覧いただきたいと思えます。郡山の酒道会は現在会員300名、毎回120名超の例会参加者があり、郡山で勤務された方が転勤後の思い出として、更に途切れていた昇段を目指し旧交を温めるなど、心のつながりを深める機会にもなっ

ていると聞きます。平成8年の五段昇段以降修行を怠っている私も、この機会に改めて昇段の意思を固めたところ です。



■ 略歴

栃木県さくら市出身
S63.5～H2.9 秋田ビューホテル総支配人
郡山、那須、浅草で総支配人を歴任
H19.7～ 日本ビューホテル(株)専務取締役